

日本学術会議化学委員会分析化学分科会（第 25 期・第 3 回）議事録

日時：令和 2 年 12 月 25 日（金）12:30-13:30

場所：オンライン利用会議（zoom）

出席者（敬称略）：岡本裕巳、玉田 薫、谷口 功、加藤昌子、栄長泰明、尾嶋正治、
斎藤公児、佐藤 縁、竹内孝江、藤本俊幸、宮崎あかね

欠席者：なし

記録：佐藤 縁

配布資料：

資料番号なし 第 25 期化学委員会第 3 回分析化学分科会次第

資料 3-1 前回議事録案（第 2 回分析化学分科会議事録案 201111）

参考資料①（参考資料 2-1. 分析化学 201021 資料中、資料 1:現在の委員、追加委員候補）

参考資料② 分析化学分科会 24 期活動報告

参考資料③ 大型研究計画提案 提出版（昨年度）

参考資料④ 日本学術会議学術フォーラムポスター

議事内容

・新しい期の発足に先立ち、自己紹介を行った。

(1) 前回議事録の内容について再度確認、および承認

資料 3-1 に基づき、前回議事録を確認した。既に内容については事前にメールベースで確認済みであったが、全員で再度内容を確認し正式に議事録とした。

(2) 追加委員確認等

新規に 3 人の先生方に委員となっていたいただいたが、分科会メンバーがさらに増える場合は後日追加することとする。

(3) 第 25 期における分科会の運営・今後の審議内容、および分科会の今後の開催計画について

谷口委員長より、分析化学分科会が開催した盛会であった学術フォーラム（11 月 11 日開催、「コロナとの共生の時代における分析化学の果たす役割」）の話や、当分科会が活動している内容、学術会議全体としてもよい活動を行っているので積極的に社会に発信すべきであろう、分析化学の役割もさらに重要になるとのコメントがあった。

各委員から、第 25 期の分科会の運営、今後の開催計画などについて自由に意見交換を行った。その結果、分析化学と社会との接点でもある学術フォーラムはぜひ定期的に行なうべきで、分析化学としてカーボンニュートラルや SDGs への関わり方を示した

い、提案のためのエビデンスを出すために分析化学は重要である、分析化学の教育の現状をまとめたい（IUPAC 関連）、大型研究についても引き続き検討を、などの意見が出された。

現状コロナ禍であり、これからもオンラインでの会議が中心となる。遠隔での分科会を引き続き開催していく形で進めたい（2 月 3 月ごろに分科会を設定し、テーマを決めて順に開催していく。3 ヶ月に 1 度程度の開催で進める）。

以上